

鹿行



日本の伝統楽器である箏ことうの基礎知識や技術を高校生たちに身に付けてもらう実技講習会が県立潮来高（高野光章校長、潮来市須賀）で14日から始まった。生徒たちは、各クラスごとに箏の歴史や楽器の特徴などを学んだほか、課題曲の演奏に挑戦した。20日まで。

初日の午後は、お箏の寺子屋・いたこコトハジメの高橋将行代表、手

潮来高生講習会

箏知識学び
演奏に挑戦

島広香さんが音楽を選択した普通科1年D組の16人に手ほどき。高橋さんは「箏（十三絃）の5番の糸に薬指を当てながら7番を親指ではじいて」などとアドバイス。授業の最後には、全員で伝統歌曲「さくらさくら」を優雅に奏でた。

普段はドラムをたたいたり、サクスを吹いたりしている出頭路唯いしづとみさんは「箏は弦を強くはじかないと音が出ないので難しかったが、ほかの伝統的な楽器にも挑戦してみたい」と話した。本宮結菜さんは「弦を押さえる指がスムーズに移動できなかったが幻想的な音色が奏でられた。家族に箏の魅力を伝えたい」と笑顔を見せた。

講師の高橋さんは「日本に昔からあるお箏の音の作りや音の運びを知ってほしい。姿勢や立ち振る舞いが大事ということも理解してもらい、私生活にも生かしてもらえれば」と期待した。（小室雅一）



クロスアイ
HPに動画



高橋将行さんのアドバイスを受けながら演奏に挑戦する生徒たち＝潮来高

10/17(金) 茨城新聞 2(面)